

令和4年度博士学生支援プログラムシンポジウム 開催報告

大学院教育支援機構 PhDリクルート室

開催日：2023年3月13日（月） 14:00~17:00

開催場所：新潟大学中央図書館ライブラリーホール（一部オンライン）

参加人数：191名 内訳：

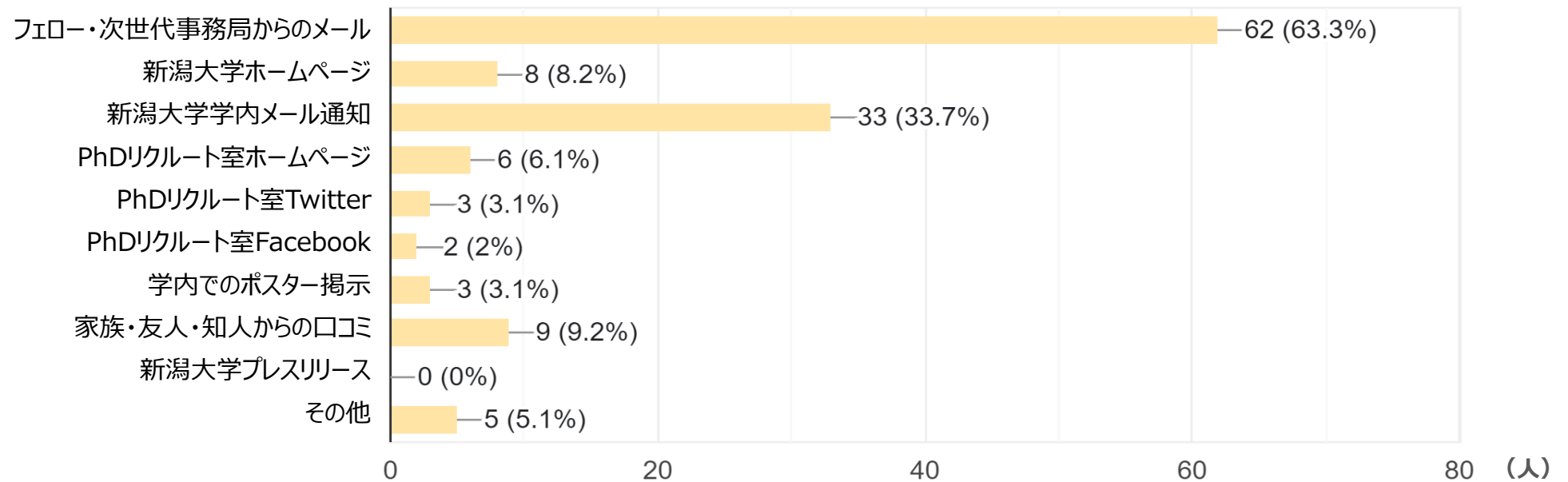
新潟大学の学生	125名
新潟大学の教職員	40名
他大学の学生・教職員	11名
産業界他	15名

参加方法：対面 90名
オンライン 101名

回答者数：98名（参加者183名）

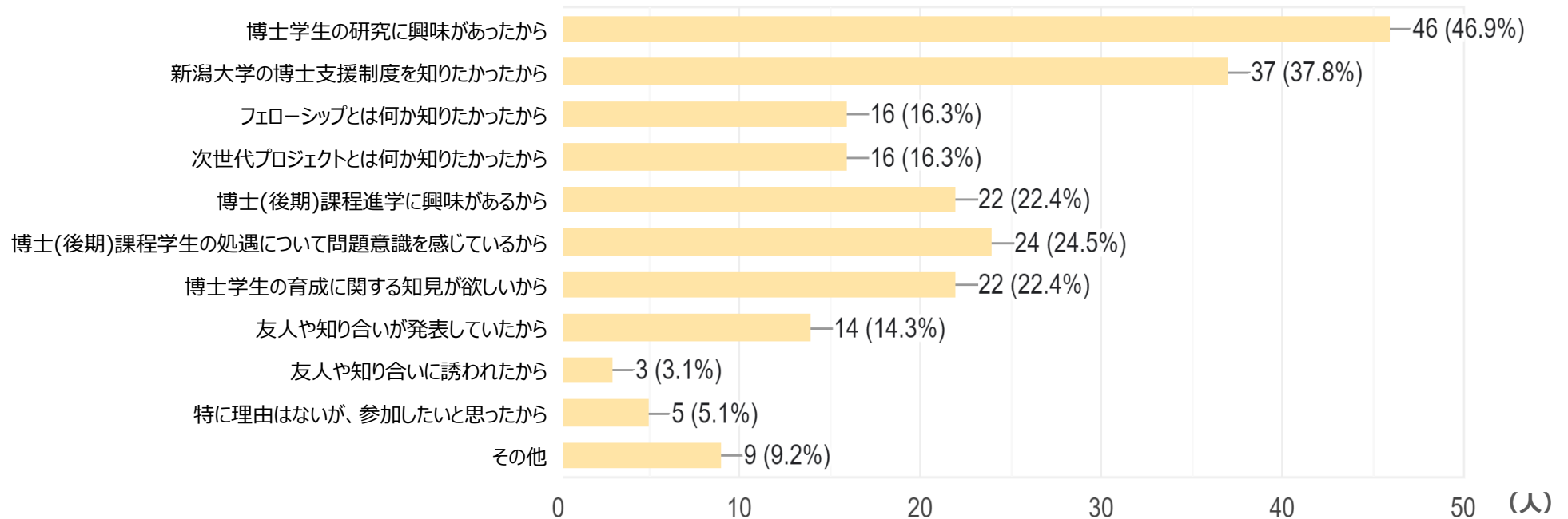
1. シンポジウムをどこでお知りになりましたか？（複数回答可）

98件の回答



2. シンポジウムに参加された理由をお聞かせください。（複数回答可）

98件の回答

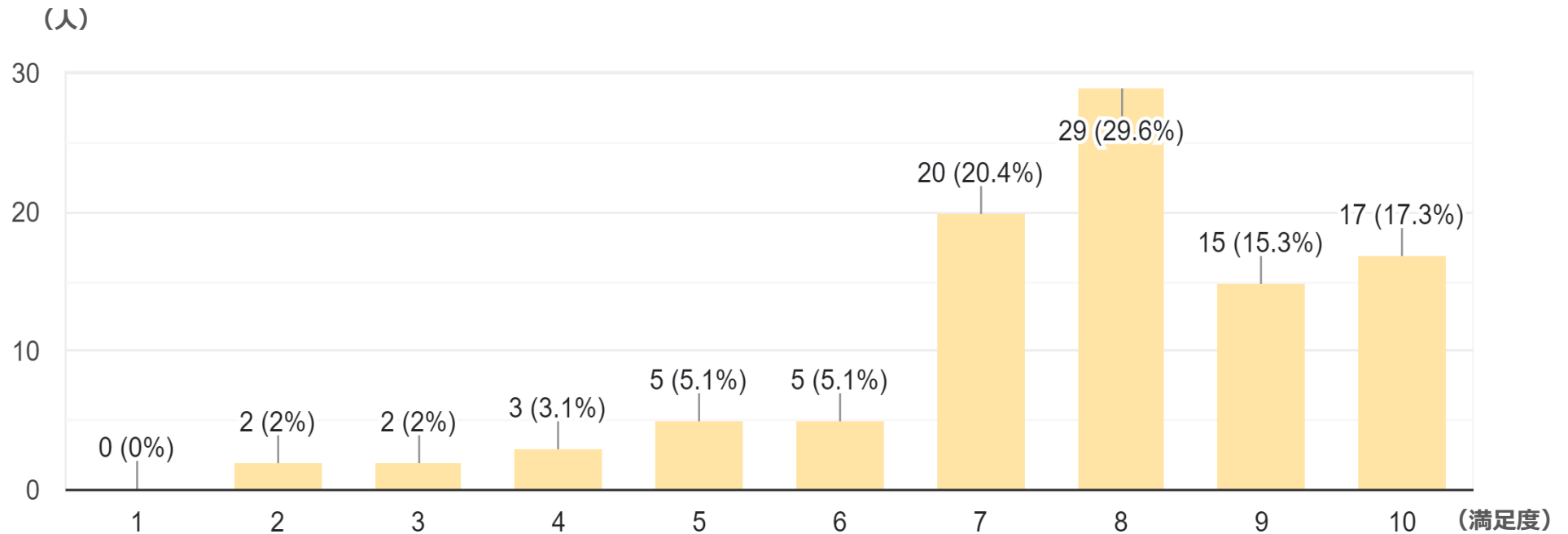


「その他」

- ・昨年度のシンポジウムの中で行われた他専攻の学生による発表が面白かったため。
- ・教授の推薦。
- ・パネリストのため。
- ・参加が義務のため（4人）。

3. シンポジウムの満足度を教えてください。(複数回答可)

98件の回答



3で答えた理由をお聞かせください。（主な意見）

※たくさんのご意見をありがとうございました。頂いた意見はすべて今後の活動に活かしてまいります。

【満足度 7 以上】

- ・様々な方の意見を聞いて、役に立つ情報が多かった。
 - ・国の制度や博士課程を取得する意義を知ることができ、価値ある情報提供をしてもらえた。
 - ・博士進学に興味を持てた。
 - ・博士学生の研究について知ることができ、その支援内容についても知ることができた。
 - ・現在の日本の博士についての実情がわかった。
 - ・企業の方の話が面白く、博士課程学生の指導に参考になった。
 - ・博士後期課程に身を置いた経験を持つ方々の、実体験に基づく意見などを聞くことができた。
 - ・各分野の講演、学生の研究発表、パネルディスカッションとボリュームのある内容だった。
 - ・文科省の方のお話が聞き取りにくかったことが残念だった。
 - ・時間がちょっとオーバーしたのは残念でした。
 - ・院生の忌憚のない意見が飛び交い、処遇改善について前向きに討論されていて良かった。その反面、この制度とは視点がずれているかもしれないが院生へのサポートという点で面白い意見が出ていた時に今回の趣旨とは違うという結論に至り少し残念であった。思わぬところにきっかけが転がっているかもしれないので、ぜひ当事者の意見は重視していただきたい。
 - ・I could learn more about what is expected from PhD students in the industry and this helped me to see how I can position myself properly during my PhD studies and exactly what skills to acquire.
-

【満足度 4～6】

- パネルディスカッションの時間が少し長く感じた。
- 他の学生ポスターを見ることができておもしろかった。
- パディスカッションでは十分に学生の意見を聞くことができなかつたことに不満は残った。
また、経済面で不安・不満があるという声に対して「支援があります」の一方通行であったのも不満に思った。

【満足度 2～3】

- パネルディスカッション時、学外の方の意見も聞きたかつた。
 - 開催の趣旨が一貫していないように感じられた。
 - 自由なパネルディスカッションになつてなかつたように感じた。
-

4. その他、本事業へのご要望（博士人材へ期待すること、新規プログラムや企画の実施など）を教えてください。（主な意見）

※たくさんのご意見をありがとうございました。頂いた意見はすべて今後の活動に活かしてまいります。

- ・論文投稿費用や学会発表に関する、より積極的な金銭的支援。
 - ・フェローなどでの、メンター面談やイベントの開催をしなくても良い様な支援制度。
 - ・経済面についての深い議論が必要だと思った。
 - ・日本の大学に在籍する博士課程の学生たちが、可能な限り経済的に脅かされることのない環境で研究に専念できることを願ってやまない。
 - ・昨年行われたメンター面談、特に面談後半の座談会は横の繋がりを作るきっかけになり、非常に良かった。
共同研究のきっかけになる可能性も感じているため、同様の取り組みを続けて欲しい。
 - ・現時点での本事業の対象の博士の学生は、次世代事業などで採用され、本学の博士の中では恵まれた境遇かつ優秀な学生だと思う。
 - ・本学の博士育成がさらに発展するためには、本学全体での博士の育成がさらに活性化される必要があると思う。具体的には、これまで博士の進学者数が少なかった専門分野や研究室への支援が対策の一つになると思う。結局のところ、博士育成は、本学全体の研究活動が高い水準で活発化することと言い換えられると思う。これらを計画的に進め、地域から頼りにされる大学となるような発展ができることが望ましいと思う。
 - ・博士人材を取り巻く現状と課題等のテーマで、大学関係者以外の業界の方から講演、意見交換等をお願いできればと思う。
 - ・企業の方が博士学生に望むこと、をメインとしたプログラムがあったら参加したい。教員や運営者の発言から、本気で研究をしたい学生の意識との温度差を要所要所で感じる会であった。現在の学生がおかれている状況が本当にわかっているのか疑問である。この会でチクリとした疑念を何度も感じた学生は多いようだが、果たして教員側はその点に気づかなかったのか。今後はよりよい博士人材支援を進めて欲しい。
 - ・There should be more industry collaborations and meetings or networking fairs with companies in order to get more insights in their expectations for PhD students so that we can prepare adequately.
-